

櫻染

日大東北工業高校同窓会誌

No. 7

1966年3月3日発行 ■ 郡山市田村町徳定字中河原1 ■ 日本大学東北工業高等学校同窓会 ■ 発行人・寺田宏 ■ 編集人・半沢忠／広長威彦

卒業生諸君へ

学校長 江崎伸市

之迄私は各種の会合の機会に申述べた事は重複を避け、茲では月並の言葉になつても二三の事を述べて見たい。

過ぐる青年時代の3ヶ年は、人生で最も貴重な時代でした。此度芽出度く卒業の栄冠を閲ら得て、懐かしい校門を跡に、大きな希望を抱いて去つて行く雄々しい姿を見る時、私は云ひ知れぬ淋しさに襲はれる。過る日、大講堂で幾度か倫理として語つた事等を想う時、今は一片の夢としか考えられない。

扱て諸君の之から展開される実社会への道

は険しく、波乱に富んで居る事を覚悟すべきである。茲に二三のハナムケを並上げ度い。但しに

「朱に交われば赤くなる」

と云うありふれた諺がある。自身は認識してゐながら、いつしか染つて仕舞うものである。気付いたら断固として交らぬ事である。又史記に



支部結成の促進を願う

同窓会長 寺田 宏

現在同窓会には会員の地域的集中度に応じ、関東、茨城、宇都宮の3支部を設けており、更に福島県支部結成の準備も徐々に進められている。これらの各支部はぼう大になつた会員の、本部で手のとどかない地域をまとめ、会の意図に添つて活動を続けている。将来、同窓会のまとまりを考えると、まず支部の強化と新支部の結成を大いに促進することが望ましいと思う。本部と支部、支部と支部の密接な繋がりによつてのみ会は成立し、そして発展する。従つて会員を地域的にまとめ、人員の多少に拘らず支部を設け、支部単位で各々の活動を奨め、これによつて更に相互の親睦を図る。これが今後の目標である。

我々は日常よく「伝統」という言葉を口にする。だが伝統とは何か。辞書を引いて見ると——系統を受け継ぐこと——とある。けれども伝統とは単なる系統の

「その人を知らんとせば、其友を見よ」と云うのがある。同類は常に集るの裏である。人の世に処するに、

「誠は天の道なり、誠にせんとするは人の道なり」と孟子は云つてある。之を現代風に云へば、「人は終始誠実を以つて貫け」とも云つて見たい。

最後に諸君が世に出て、時折非常な困難に遭遇する場合が想像される。斯様な時、「優き事の尚此上に積れかし、限りある身の力試さん」と云う山中鹿之助の言葉を思い出すが良い。

以上の事は何等の変微もない常識である。然し金は土中から掘り出すものである。

受け継ぎではない。伝統とはつくるものであり、またつくられるものである。従つて私は伝統とは日夜努力し練磨すること

であると信じる。磨くものは誰か、それは同窓生であり、在校生でもある。特に同窓生は在校生のカガミでなければならぬ。カガミを磨くことは無限に尽きない。世の中は常に前進する。それに一步先んじた綿密な計画と実行、反省、そしてまた計画——とこのサイクルが伝統を磨き輝やかせる。

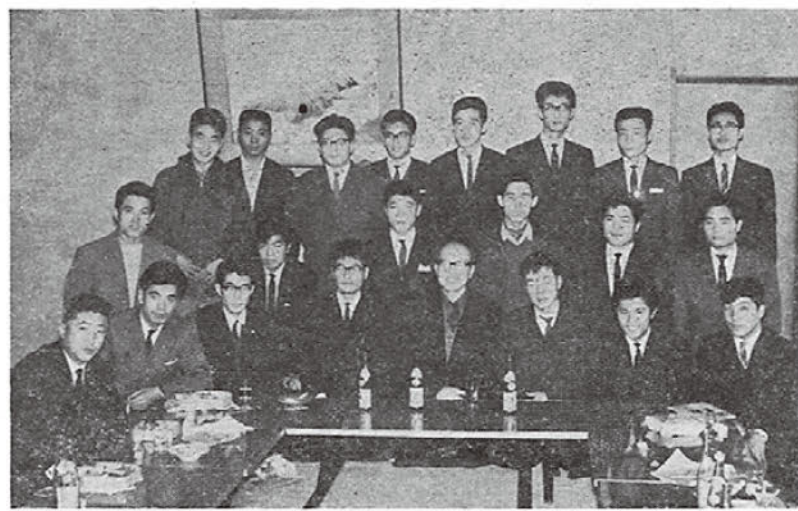
母校は今年で創立満15周年を迎える。1期～4期生には馴染みの深い木造校舎もまだ1棟だけは健在である。学園内は現在2棟の新館が堂々と偉容を誇っている。そしてまた各種の施設も充実されつつあり、学校長江崎先生はじめ諸先生方のご努力により大学は着々と発展の一途を歩んでいる。一方この最良の環境で学ぶ在校生の活躍も、好成績を挙げており、時折マス・コミに報ぜられた記事を見ては「デカッソノ良くやつたなあ」と感激する気持は1人私だけではないと思う。誠にわが事のように嬉しい限りである。これらの成果はやはりチームワークがガツチリと組まれてこそ成せるものである。

同窓会のまとまり及び支部誕生を願う時、やはりこのチーム・ワークを第一とすべきである。卒業後も、昔のチーム・ワークを取り戻し、会の円滑なる運営を図りたいものである。

母校の発展を諸兄と共に喜び、わが会も負けずに進展の途を堅実に歩みたいと、微力ながら努力する覚悟です。



着実なる運営 ◇本部◇



(第9回総会に出席の顔ぶれ)

第9回総会と新年会

40年1月2日午前11時より、郡山駅前福豆屋本店で開かれた。顧問の森田先生はじめ大塚先生、山口先生、会員約30名が出席した。今回は特に初代会長を務めた長谷川武君も出席、発足当時の苦労話などをし、10年余の経過した今日やはり感慨深いものがあった。

議事は、経過報告、会計報告、今年度の計画としての原簿作成、桜染の発行など。また今年は役員改選期に当たっていたが本部役員会一任となる。

続く新年会では、会員の消息、同級会の模様、勤務先の会員の状況、恩師の回想、母校の発展状況など、話は尽きない。終りに一同記念撮影して、次回総会での再会を約して解散した。

会員原簿の作成 名簿の整理と桜染

▷4月11日 原簿作成につき見積予算の検討。また桜染第7号の内容検討、原稿依頼など。

▷4月23日 原簿(ホールソート・パンチカード)の原稿を作成し検討する。桜染原稿依頼発送。

▷6月4日 パンチカード内容の再検討と第2回原稿依頼。

▷7月~11月 役員個々に原稿依頼し、送稿を待つ。7通ほど来る。パンチカード作成発注。

▷12月3日 パンチカード完成しキャビネット他一式購入。カード記入方法について検討、各役員分担で記入することになり、3月末日まで完了目標を決める。

桜染発行は原稿の都合により来年早々に持越しとなる。

第10回総会は各支部との連絡をとり、会員在住の多い関東地区で開催の予定で進める。

▷41年1月31日 今年度初の顔合せ、持越しとなった各事項を早急に実施することによって先づ桜染の編集に入る。紙面の刷新を図るため体裁を新しい組み方に変えて進める。

▷2月14日 最後の編集会議、寺田、半沢、藤谷、広長の4名で終夜まで検討し、どうやら割付まで進む。また今回は、森田先生にも学校関係の記事などでお世話になった。

より親睦を深める

<茨城支部>

溜沼釣り大会

40年11月3日、溜沼の釣大会は、家族同伴でレクリエーションをかねて行った。朝7時から船に乗り込み、大いにその腕を競ったが、魚を釣るよりビールに釣られる者が続出し、その方にばかりハッスルして、収穫はますますと云つたと。夕方3時過ぎまで家族共々愉快な1日を過ごした。

支部総会と新年会

41年1月25日、新年会を兼ねて支部総会を開いた。前年度の運営についての反省や今年度の行事などを話合った。また今年度の役員も決め、今後の活躍を期待し、また同窓会と母校の発展の為に全員で校歌の合唱をして終りとした。

●支部長 村田秀二(6期機械)

●副支部長 中沢博之(8期機械)

支部会員総数 33名

関東支部の現状

支部長 吉村 春雄

わが同窓会も間もなく13期生を迎え約6000の会員を容れて、母校と共にますます発展の途にあることは喜ばしい次第です。関東支部は東京・横浜という大商工業都市とその衛星都市を含み現会員数は3000余名に及び年々300名以上の会員が増加しています。

支部役員の下に中央・京北・京葉・京浜の四ブロックに分け、各ブロックに委員を定めて自主的な活動を推奨しています。支部総会は毎年8月に開催していますが、会費の徴収はもちろん連絡も思うにまかせず組織が大きくなるにつれて同窓会活動がマヒ状態になってきています。その原因には会費納入率が低いことによる資金不足、会員名簿の不備、総会会場選定の困難、同窓会の魅力などが数えられますが、従来の同窓会運営の方法を検討し抜本的対策の必要にせまられています。38年の支部委員会においては第1段階として

(1)カード式の会員名簿を作成する。
(2)会費を永年会費として全額を1000円とし納入率を高める。以上2つの問題を解決することを決定し、39年に本部・各支部・学校当局からは森田先生の御出席をお願いして合同役員会をもつた。そこにおいて会員名簿はカード式のものを作成することが決定され、本部予算に組込んで41年3月頃には完成するはこびになった。

会費の件は各支部それぞれ事情が異なり意見の一致を見えず現状通り年額100円となりました。今後の問題としては各クラス委員が活動しやすいように組織を細分化し、クラス会を重視して横の連絡を密にする。会員相互はもともと在校生、先生との交流をはかり、同窓会を魅力あるものにする。そのためには機関紙桜染の原稿をできるだけ沢山の人が募集し全会員に行渡るように努力する。また就職などで上京する際は都会に馴染んだ先輩が歓迎して呉れたらどんなに心強く感ずることか。そしてまた田舎のこと、学校のこと等聞いて、青春の血を燃やした故郷を想い、都会生活で殺伐とした心を慰やすことができる。そして会員相互の旧情親睦を図り同窓会の輝かしい伝統を築いていきたい。

今年の活躍を待つ

<宇都宮支部>

現在支部会員は、1期生3名、2期生3名、3期生2名、4期生2名、5期生1名、6期生2名、9期生5名、12期生1名以上19名。各自それぞれの職場で重要な任務を勤めている。現在は富士重工内だけの範囲であるが、今年からは宇都宮はじめ栃木近県在住者に呼びかけて、支部の充実を図ることになっている。

また昨年まで伸び悩みの状態にあった運営、活動を活発にしたいと意欲は盛んである。今年が期待される支部である。

●支部長 小林勝利(4期機械)

日本経済が世界の注目を集めるような高度成長をしたうらには、丁度血管が身体の間々まで配管され、昼も夜も休みなく血液を循環して人間の成長と活動を支えているように、国土の間々まで網羅された送電線、配電線を伝って産業の成長、家庭の生活を支えている電気のあつたことを忘れてはいけな

い。血圧が高くて低くても正常な身体は活動は出来ないと同じように、電気もサイクルを一定に保たなければ正しい働きはしない。サイクルが一定であるとい

うことは消費される電力と発電電力量が等しいということです。日本は水主火従といつて水資源の豊かさを誇っていた。しかし成長する日本経済は貧乏性に電力を要求してやまなかつた。当然山

奥化し水利土地補償など建設に手間どる水力発電だけでは社会の要求を満たすことはできない。いきおい消費地の近くに大容量火力発電所が続々建設され、現在は火主

水従と替つていく。もう渾水期になつても街のネオンが消えることはないでしょう。電気は発電即消費という水やガスと違う特質のため、刻々変動する消費量(負荷)に即応した量を一定のサイクルで供給することは技術的に至難であ

つたが、最近は自動周波数調整装置(AFC)の開発が進んである程度一定サイクルに保持できるようになつた。また一日の最高負荷(夕方)をまかなうだけの発電設備を用意しなければならぬ。その設備は低負荷時(深夜)は運休し遊ばすことになるので大きな資本を寝かせることになり、負荷の凸凹を小さくすることが大きな問題点となつて

いる。これは消費者のみならず協力していただかないと解決できない問題で、深夜の電気料金を割引するなどして工場の夜間操業を奨励している。火力発電が多くなれば石炭重油の熱エネルギーを有効に電気に変換することも大切となる。また石炭重油の埋蔵量不足を予想してそれに代る原子エネルギー利用の開発も進

特集



めなければならない。すでに東海村には原子の灯がともり、福島県双葉郡にも原子力発電所を建設する予定で用地買収は済み、今年着工の準備が進められている。日本の電力は北海道・東北・東京など九つの電力会社が供給義務をもっている。

昼も夜も

産業と電化生活の裏方

2期機械 吉村 春雄



(中央操作室ボイラー制御盤にて)

その外に、奥只見水力、常磐共同火力など公営私営の電源御業がいくつかある。西日本は60サイクル、東日本は50サイクルの電力供給をしているので、ステレオ、電気洗濯機など電気器具は大阪から東京に転居する場合、部品を交換しなければなりません。部品は電気器具を買うとき50サイクル用、60サイクル用と両方付いているはずですが、同じ国内で二種のサイクルを採用しているのは不便ですが、今更統一することは莫大な費用がいるので不可能でしょう。ではどうして西日本と東日本でサイクルが違うかというと、大阪はイギリス系の技術を導入して60サイクルを採用し、東京はアメリカ系の技術

を取り入れて50サイクルになつたと聞いています。

私の職場は隅田川河口にある新東京火力発電所。66MW×2台、75MW×3台、125MW×1台、合計出力482MWです。私は125MW発

電機を12名で交替勤務で運転しています。ボイラー、タービン、ゼネレーター(unit)は中央制御方式で中央操作室(中操)に監視器・テレビ操作スイッチが集約されてunitの運転状態が中操で把握できる。正常な運転状態のときは機器を

自動にセットすれば発電機は中央給電指令所(負荷)に応じて各unitに経済的出力を指令する所の指令に従って自動的に運転されるのでわれわれは計器の監視、記録が主任務です。しかし一時も油断できないのが事故である。事故は予告なしに瞬間にやってくる。正確に迅速に正常な状態に復帰させる必要がある。われわれのミスは消すことができない。チョットした誤操作がより大きな事故を生むからだ。

事故は自分で起して修得することができないだけに、またその種類、規模が様々で予測しない時にやってくるので対策が困難である。中操で発電機の出力を見ているだけで社会の一日の活動がわかります。朝始発の電車が走り、主婦が起きて電気釜のスイッチを入れる頃発電機負荷が増え始める。みなさんが満員電車に動めに向う

頃、夜間停止していた発電機も一斉にスタートする。工場のモーターが回り始めると発電機出力がいつぱいとなり、朝のピーク(最高負荷)となる。12時、工場が昼休みになると負荷も下り、13時また全負荷となる。夕方家庭で夕飯の仕たくを始める頃一日のピークができる。みなさんが夕食もすんでテレビを楽しむ頃には負荷も相当下りますが、テレビ番組によつて下り方が変わってきます。22時頃から停止する発電機も多くなります。午前0時頃から負荷は最低になつて朝の上昇まで着きます。その間に私たちは即席ラーメンの夜食をとります。

【東京電力(株)新東京火力発電所勤務】

研 ぐ

4期機械 佐久間 留 義

物を生産する手段に、切ったり削ったり、研いだりいたします。これは基本的な要素となるもので、これらがとどころなく行われたいと夢の超特急も走れないし人工衛星も飛べないことになる訳です。説明が大変飛躍しましたが、切る、削る、研ぐ、のうち私の携る仕事は「研ぐ」云々ゆる研削加工の分野に属しその技術の相談にのるものです。

私の会社は商事会社ですのでメーカーの如く基礎的な研究から始め、製品を生み出すのは性質が異なり、メーカーの作った優秀な製品の販売を担当し、販売するのみでなく、技術の販売も行わねばなりません。それは適正なる製品を良く使われる様に指導しそして精度の高いものを生み出さなければならぬからです。

会社の一部に、技術研究部が設けられていてそこで販売に必要な技術の提供を行います。研削加工と云つても範囲が広く研削砥石を用いて加工する法、砥粒を用いて加工する砥粒加工に分れ、そのいずれにも関与するのです。研削砥石について私等の在学中における知識は皆無と云つてよく、又研削加工法の学問に立入ることも殆んどなかつたのではなからうか。研削砥石は砥粒とゆう鉄物質の細い粒を用い、結合剤といわれる無機質或は有機質（ベークライト）などの物質で固め、高い温度（前者は摂氏プラス300度後者は200度内外）で焼き上げたものです。これは各種の形状をなしていますが代表的なものは平形の丸い形状をし各種の寸法を有し、云々ゆるグラインダーとゆうものがそれです。

さて研削加工ではこのグラインダー（JISでは）研削砥石を工具として用い研削加工を行うもので、工作機械に研削盤を用い円筒外面研削、平面の研削内面の研削、歯車の研削、バイトやフライスカッ

ターなどを研削する工具研削など多方面に亘って使われ研削加工が行われているのです。研削加工がなぜ必要かは、云々までもなく機械部品の各機能を十分発揮出来る様バイト削りした上に、更に研削加工を行つて高い精度（仕上面や寸法の精度）を得るためなのです。そして金属のみでなく非金属もあらゆる分野に亘って重要な役割をはたしています。研削の基本的模型は、丁度フライスの刃が無数に並んでいる状態を思えば理解出来、フライスの刃一つ一つにあたるものが砥粒でそれが集つて構成されている工具であると思えば容易だと考えられます。説明が余り技術的になつてしまい、私の仕事の本筋から悦脱しそうですが、私の仕事を紹介するとどうしてもこの様な砥石のこ

とまで立入らないと説明出来ないのでは御容赦ねがいたいと思います。

さて研削加工が多方面で行われ産業の重要な一環をなすものですが、このデリケートな研削作業に於ける状態で、どんな場合にどの様な研削砥石が適当するか、又どんな砥粒が用いられればよいか、たえず会社や工場の技術者と技術の交換をし、すぐ解決出来ない場合など又色々なクレームの発生の場合など試験と研究を施し適正なる加工が行えて良い製品が生れることを念願し産業の発展に一役と思いつつ任務の遂行に励んでおります。



雪国に聳え立つ

2期工化 S・S

上野駅から急行で七時間半、この新潟県最北端の市、そこには日本海の荒磯と、豊富な温泉より眺る島々、又鮎と鮎の棲息地として知られる清らかな三日月川が市の中央を流れ、そして今はただ石垣と老松に名残りを留める静かな城下町、人口3万2千余の村上市が在る。

日本化学村上市工場は、当時最新の設備と技術をもつ「熔成燐肥」製造専門工場として業界の大きな注目を集めながら、昭和27年5月建設に着手、翌28年1月から操業を開始しました。

建設に当っては、土地柄の不案内、冬期の悪天候等に悩まされながらも、建設陣の不屈の努力と地元の絶大な協力をもつて短期間に数々の想い出を残し完成したものです。

約五万坪の敷地を村上市の西北に求め、工業用水は朝日連峰に源を発し日本海に注ぐ三日月川を利用、電力を東北電力より供給を受け（最大受電能力1万7千KVA）、村上市からの側線をもつ

て入出荷をして居ります。年間約15万トンを生産し、現在では設備も逐次増強し、熔成燐肥電氣炉4基で製品

化をはじめ、36年には各種「化成肥料」を製造設備（年間1千トン）を稼動させる一方、38年には新潟県に創設の深い天然ガス、石油ボーリング用その他に用途のある「微粉バライト」製品設備（300トン/月）を完成、更に目下6月に生産開始を目標に、今流行のウレタフォームの耐荷重性改良用等に使用させる（ひ性硫酸バリウム）の製造設備を建設中で、肥料専業から多角化へと進みつつあります。

「熔成燐肥」、「化成肥料」の製造と云うと、何か単純のように聞こえますが、「熔成燐肥」で登録名称が18種類、「化成肥料」では30の銘柄もあり、また出水状況による電力の変動や肥料需要期のかたより等により、大きな波のある作業となつて居るため、従業員は100名あまりですが、11月から3月の繁忙期には近郷の農家より100数名の季節的臨時工を採用し、生産に励んで居ります。

【日本化学村上市工場検査室勤務】

何んでも屋

設計から
立会試験まで

7期機械 芳賀 正 昭

オリンピックブームに便乗し、産業界に於て、急に目覚ましい発展を見たのが建設業界である。公共建物、道路等も見違えるばかりに整備されました。戦後、欧米諸国に比較して立ち遅れた建設機械関係も、地味な存在ながら、技術革新の時代に相応しく、日進月歩新しい機械が研究、開発されて今日に至りました。

この建設機械と密接なのが油圧機器であり親子の間柄と申せましょう。

私の仕事は、以上述べた様な業務であります。会社が弱小メーカー故に、業界に乱立している既存メーカーにどの機に食い込んでゆか、これが我々技術陣に課せられた大きな壁でした。同機種では、性能、価格の点で優れても、無名の悲しさ、売れなくてはとうにもなりません。そこで、特異な機種種の選定、開発に奔走し、ユーザーとも積極的に話をし、道路と下水道関係の新種の研究を始めました。

時に宇宙科学者は、未来を予測し、発表出来ないが、素人は責任がないというか、何んでもズバリ答えられ、それが割と現実となつて現われてくると言われます。

我々の考案した道路維持車も、素人の方が、何の気なしに、「四輪車にローラーをつけたら便利なんだが、どんなものでしょう」と言われ、実験の結果製品と相成りました。そこで、不可能に近い事でも、聞き流しては本当にいけないなど、つくづく私は身を感じました。

設計技師として、一人前になるには10年かかると言われます。私は、まだ半分だし、一日一日が勉強です。中小企業の為、その点は恵まれ、設計者としての下地を作るには、非常に環境がよく、スケッチから、製図、強度計算、試運転、

母校に勤務して

2期機械 藤 谷 周 孝

山梨県の片田舎、名もない中小工具メーカーに付いていた私は卒業して8年目の38年3月恩師太田務先生が県立喜多方工高に移った後任として母校に就職しました。私の学んだ古い木造の3、4号校舎がほぼ昔のままの形で残っており、周囲のアカシアの木や一期生の植えた杉の木が8年の歳月を示すように大きくそだつており、新しい鉄筋の一号校舎が元の実習工場の所に建ち、二号校舎も完成間近でした。間もなく古い3号校舎が消え次々に新しい校舎が建つて正に申し分ない環境に日々変容しています。

あれから3年、今年卒業の13期生は入学試験から手がけた生徒で何かと思ひ出多いものがあります。

頭の中味に比例してか童顔小男の私は外へ出れば生徒と間違われ、内にあつては学部の生徒と間違われたことなど変つた体験もしました。これも二人者の世帯やつれた顔をきらい、独り者の気楽さを楽しみ過ぎたむくいとも思っております。



所で現在母校で教鞭を取る卒業生は二期の私の他に三期化学の郡司一弘三人者、同電気久保田正典二人

者、四期生土柳沼光男独り者、同土木太田興亜独り者の計5名、卒業生代表のつもりで頑張つてます。でも自分達の学んだころの恩師の年令と現在の自分の年令とを考えるとほぼ同じ年令ですが、その仕事の内容を考える時

恩師のそれが数倍優る様に思えることがあり時々反省しています。日々近代化の波の中にある先輩諸兄、貴重な体験や在校生に望むことなどたまには手紙でもお寄せ下さい。又雇用の折など母校を訪れて見て下さい。その未来を暗示するよう

なまごとな校舎や校庭にきつとおどろくことでしよう。又諸兄の担任だつた諸先生も多数在職していますからどうぞおいで下さい。今後も毎年多数の卒業生が巣立つて行きます。卒業生である私達5名全力を上げ後輩の教育にあたります。諸兄におかれましては各々その職場にあつて努力し多くの信頼を受けるようになればゆくゆくは母校の発展にもつながるものと思います。このへんで諸兄の御多幸を祈つて下手な筆を置きます。

納入後の立合試験、説明会等、出張のケースもあり、旅行好きな小生には、非常に恵まれて居ります。一方、この産業革命時代に於て、何んでも屋というのは、求めている人間性に反するかも知れない。他人より一ツ頭抜けた部門での専門家にならないといかんと思う。でも私はこう考える。一つの理想に近づかん為には、基礎で、総仕上げをしてから、現実に向かいたい……と。

とに角、我々中小企業に従事する者に

とつては、今日が大切であり、如何にして、会社の利益を上げ、実績を残し、この荒波に打ち勝つてゆく事が出来るかということだ。

日本の道路が早く欧米並に良くなり、マイカー族が、安心してドライブを楽しめる様に、又各種、下水関係の清掃と、私の仕事は非常に公共性を帯びています。その事を肝に命じて、自分が進んで入った道ならば、自信と誇りを持つて社会奉仕の為に我道直進する覚悟です。

- ・ 母校の日々発展は目ざましく、新校舎及び諸設
- ・ 備も整い一段と充実してきた。また教育面でも完
- ・ 全授業の実施、補習の強化などで著々その成果を
- ・ 挙げて来ている。
- ・ 今年は日大郡山学園開設20周年に当たり、6月に
- ・ は盛大な式典が計画されている。
- ・ 先頃母校の現況や今後のプランについて学校長
- ・ 江崎先生にお伺いしたので、その主なものを紹介
- ・ しよう。

建設中の施設

●図書館及び本部

鉄筋コンクリート3階建、延建坪1340㎡(405坪)、既に完成している1号館と2号館校舎とを渡り廊下で結ぶ位置に、昨年8月着工で進められている。現在外観がほぼ出来上り、4月の竣工を目指してビツチを上げている。

内部は1階は事務室、2階は校長室及び職員室、そして3階が図書館となっており、完成後は図書が更に充実され生徒の学習に役立つものと期待されている。

●大講堂兼体育館(学部)

グラウンド北側に昨年8月より図書館の建設と併せて着工された。鉄筋3階建、(1階)学生ホール、(2階)大講堂兼体育館、(3階)ホールとなっており、延建坪は5166坪(1536㎡)で東北に類のない大規模な近代的設備で、大講堂には4000名が収容でき、学園の一大名物となろう。

完成後は高校はもとより、一般の利用も予定されており、講演会、体育競技、その他大いに活用されるものとその完成が待たれる。

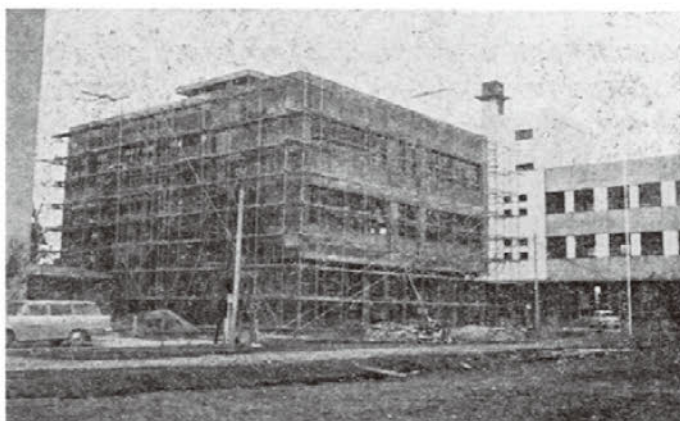
●門及び門衛室

現在、従来の北側の門(正門)の工事が行われており、ここには宿泊出来る守衛室も出来る。これが完成後は南側の裏門及び門衛室の建設も予定されており、大学園の玄関にふさわしい両門に近い中に整い学園生活の規律もより正されるだろう。

教育

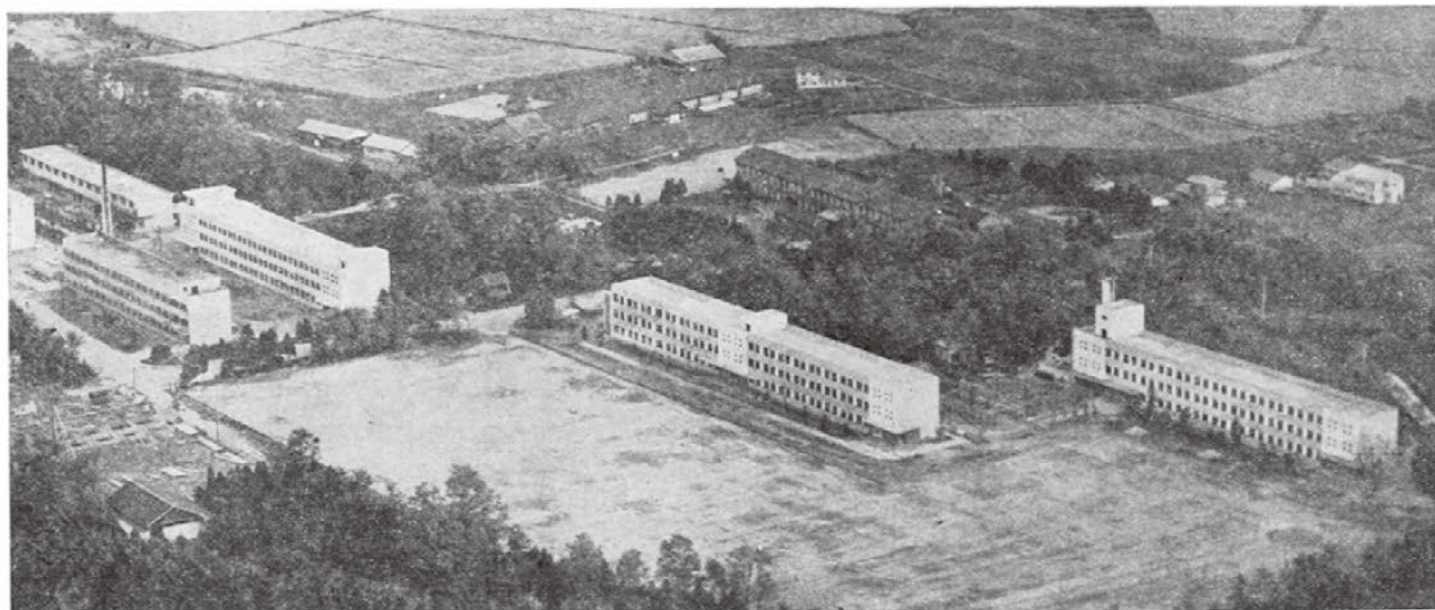
今年度からは日大全学部に対しての試験免除の巾が増大され、上位成績者は無試験で希望の学部へ入学が許可されることになった。

今年度卒業生のうち、現在44名の進学が決っている。今後も授業の強化と補習の徹底により、更に多くの進学希望者全員の入学を計っている。



発展めざましい母校

＝施設の充実と教育の徹底＝



建ち並ぶ新校舎と大グラウンド……………左から学部校舎、高校2号館、高校1号館

就職状況は今年度も世の不況に拘らず、ほぼ100%に近い成績で、これもやはり授業の徹底、諸設備の充実による成果であると云える。

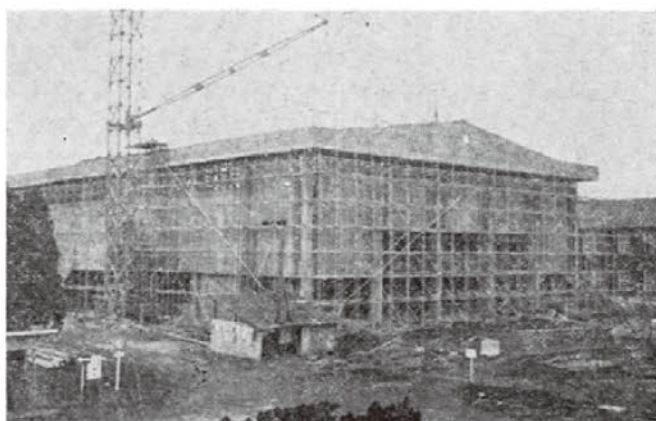
クラブ活動も盛んであるが、立派な成績を挙げているクラブを重点的に指導し、益々学校生活の意義を深める計画である。

また対外的信用も年々増して来ており、これらに添えるべく更に教育面やその他活動の向上に努めている。

現在在校生 約2000名。

●運動場の整備

グラウンドには公認の400mトラックが設けられ、また野球場を西南の位置に移し新しくバックネットも建て、その他設備を充実して体育面での活動も盛んにする。



●道 路

学園内の総ての建物を結ぶ道路は6月までに完全舗装される。また阿武隈川沿いに約3000坪の土地を提供し、金山橋からの道路を川沿いに永徳橋まで延長する工事にも近く県で始められる。2年後に完成の予定。完成後はバスもこの道路を運行される。

学園外施設

●日大東磐梯寮

磐梯東山麓谷部近くに建設されていたが2月17日に開所した。暖房完備の立派な宿泊室を設け、空室のある場合は高校生や我々同窓会員も利用できる。学生550円、教職員他700円(何れも3食付)

●日大校友クラブ

郡山市荒池南畔に建設が予定されており、講師の宿泊室や会合の施設で、娯楽設備、食堂が備えられる。

今年度から設計に入り42年中には完成の予定である。これも我々会員の利用も許可されるので、総会やその他の集会に利用出来、一日も早い着工が待たれる。

写真説明

(左) 建設中の図書館と本部
(右) 東北一を誇る大講堂兼体育館



(優勝旗を掲げて喜びの一同)

駅伝に大活躍

県大会で優勝

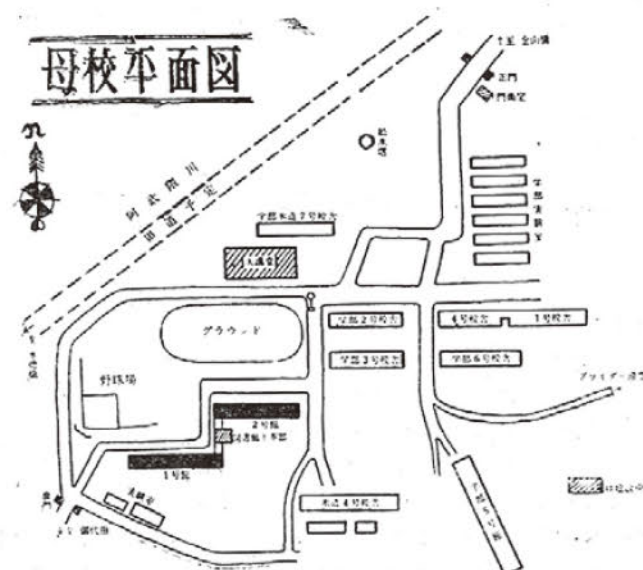
昭和40年12月5日、福島一越河間往復のコースで行われた第10福島県高校駅伝大会に於て、母校チームは良く健闘し、見事2時間16分43秒の大会新記録で優勝した。

東北大会でも3位入賞

県大会に続く東北大会に県代表として出場、3位入賞の好成績を収め、全国大会の出場権を得た。

全国大会初出場

大阪で開かれた全国高校駅伝に初出場し、全国の強剛と覇を競った。初陣ながら全員よく健闘、入賞は逸したが母校の名譽を一段と高めた。



味わう山

2期電気 安 斎 三 郎

私が山登りを始めたのは、多分中学生の頃ですが、高校の時に山岳部に入つて県内の山を歩いて一種の感銘を受け、調和された雄大な景色を追う様になつてしまいました。

卒業し会社に入つて、余暇の利用は山以外にないと思ひ、放浪性の多分にある見分は給料の大半は用具とその費用に当て、余暇の中心は登山の一言につきましました。野球をやるのもラグビー部に入つたのも、全部登山の為にトレーニングでした。会社の山岳部に入つて2〜3年目は栃木県の山を知る為と、自分の実績を作る為に毎週々々朝4時起きで登山に出かけ、ここに笑えない話がありました。それは健康診断でこの年に要注意という判決を受けました。自分でも驚き、これで登山は終わりかと本当に悲しんだものです。結果は登山のオーバーによる血沈量の増加が原因で何でもなかった。この事

が私の登山に対する考えを変えて呉れたのです。無中で山さへ登れば満足だった考えより味わう登山へと発展して行つたのです。

この様にして登り始めて、10年余、本州の山の殆んどに足跡を残すことが出来た。各地の名山、それはそれぞれの持味があつていいものです。山の中心はやはり北アルプスです、何度入つたか知れないが、未だ未だ全ルートを探勝するまでには達していません。今年は夏に黒部源流から岐阜県のルートと、国体の県監督として参加したい。来年の5月は北海道の日高山脈に入ると云う様に1年のプランは立ちつくし余暇の自由は全然なしと云つた状態です。

今、栃木県山岳連盟の理事と全日本山岳連盟の公認指導員となつていて都合上、安全な登山はどの様にすべきか若い



人達に理解して頂けるように指導中です。そして1人でも多くの人達が安全に大自然と接し、雄大な人間となる為にもどろん山に登つて頂きたい。楽しむだけの登山でもよい、途中で止めることなく、いつまでも山を愛することが出来る様に体力と勇気を持つことが大切だと思う。その為にも登山を始めようと思う人、山に行つて居る人は正しい指導を受けて安全登山を実施すること、その為には山岳部に入る事です。

この様に日本各地の山旅をして「一番君の好きな山は」と聞かれるとアルプスでも富士山でもなくそれは故郷の安達太良である。私は誰よりもこの山が好きだ。この山の持つ美しさはアルプスの尾根筋よりも谷川岳の岩肌よりも、スケールこそ小さいが雄大でそして女性的な美しさがあると思えるのは故郷の山だと云う欲からだろうか。福島県も観光開発が進み、山奥まで自動車が入ることは本当に残念なことだが、山は遠くにあるものだろうか。その為か、私は安達太良に故郷を持ちたい一心から我が妻はその山麓より探し求めた。

今後現役を引退しても、若い人達の指導と秘境を求めたり、自分が取残した山を追いつついつまでも登る考えだ。

同窓生が全国各地に散つて居る現在では山岳部のOB会の発足は、無理かも知れないが、機会があつたら母校の連中と一緒にいつか福島山を登り、一緒に語り合いたいものである。

【いすゞ自動車川崎工場勤務】

私の信条

7期電気 大 山 元 宣

人は皆夫々の人生観なり生活信条なり抱負なりを持つて生活をして来たはずであるし、又それは当然のことと云わねばならない。我々にとつて現在特に重要なのは青年時代である。クラーク博士は「Boys be ambitious」と云われたが、一個人にしてもまた社会全体から云つても青年層がどういふ態度姿勢をもつて

いるかと云うこと

が極めて重要な意味をもっている。私は家庭の事情や頭の事情？その他から進学せずに社会人として5年を暮して来たが、私は自分の前途に大きな生きがいを感じている。それは自分が働くことによって、単に自分の生活のかたが確保されると云うだけでなく、

日本経済の発展と興隆に少しでも貢献できると云うことを固く信じているからである。

私は「正しく、強く、明るく」と云う信条のもとに生活せんとしている。「正しく」とはどの様な悪の誘惑に対しても正しい判断を持つこと（理性の高揚）を意味し、「強く」とは、たとえ理論的に立派なことを知つても実行力がなければ駄目であるからその意志を養ふこと。「明るく」とは、社会生活において（人と人との交際において）相手の感情をそなわず、協調的立場で世の中を生き抜くことと云う意味である。

現代的にカッコ良く

―ケチは男性の理想像―

7期電気 佐 藤 友 洋

昨年来の不況は今年もまた尾を引いて、一時も早い回復が待たれるのは、やはりサラリーマンの我々にとつても同じことです。ではこの不況時代に生きぬくためにはどの様な方法を取つたら良いか。それはたゞ一つ「ケチ」に徹することです。それも合理的にカッコ良く、これが現代のヒーローと迄云われているのですから……。

そこで新ケチ哲学を身につけて下さい
【第1章】デートはワリカンにすること

と
上場銘柄でさえ軒なみバツタ、バツタと倒産するご時世です。ありもしない銭をある様に見せかけて得意になっている男よりも、デートもすべてワリカンで済ます位カッコ良く、備えあればウレイなしの生活をしている男性の方がずっと魅力的と云うのが現代女性の男性観らしい。数年前迄「酒もタバコも飲まない様なケチな男は

大キライノ」と云う結婚候補生が圧倒的に多かったことを考えると真に隔世の感があります。しかし爪に火を灯す様な昔の暗いじめじめしたケチな男は問題外、いわゆる「合理性や計画性のあらわれ」としてのケチこそ彼女らが惹くケチなのです。男性たるものこのへんをとつくり考慮して「貧乏の年」を生きぬこう。

【第2章】オツリは必ずもらふこと
「ケチ男」は徐々に新しい価値を見出し出て行く。始めデートしてワリカンの分を要求されてカチンときていた女性も、やがてはその合理性に魅力を感じてゆくでしょう。あるバーのホステスもこう云っています。「よくお客さんに100円出されてタバコを頼まれますが、こんな時ツリはいらないよ」なんて金持ぶる

男よりも、オツリをガツチリとつて小銭入れに入れる男の方が何か信頼がおける様な気がしますね」少い金をハデに消費する男性より、その少い金を堅実にムダなく使う男性の方が女にもてるのです。と云うことは男女共一時的な楽しみよりも長い幸福を大切にしようとする考え方が増えて来た証拠。諸君、ケチな男性は次第に見直されている。もし諸君のケチにケイバツのマナコを向ける異性がいたとしたら、それは幸福な生涯の伴侶としては不合格者。逆にケイバツのマナコを向けてやつて頂きたい



【第3章】物は現金で買ったたく

異性が見て本当に頼りになる異性とは「カッコいいケチ」を実行している男でしょう。それは現代的センスに裏打ちされていなければならない。普段はロードショウより三本立ての三流館で映画を観、食事も社員食堂の一杯30円也のウドンで

すまして居る様な男が、彼女と旅行と云う事になつたら1等をフンバツして平気な顔。そのワケは「目的地に着くまでの二人の肉体的消耗の損失を計算に入れると、2等より1等の方が得」と云う事になるのです。また昔のケチだつたら、1枚の下着やワイシャツ、クツ下を後生大事に使うでしようが、現代はさにあらず。それらを1週間分（7着）いつべんに買つて毎日取り替える。この方が長持ちして結局安上りになる。月賦で物を買うより金をためて現金で買ったたく。本当にケチと云うのは「金を使わずに頭を使うこと」なのでしょう。これを自然に実行している男性が現代でもつとも頼りになる男性と云えましょう。

【ニチバン株式会社勤務】

同級会にて

2期建築 遠 藤 新 和

1月3日、小春日和。今日は才1回目の同級会である。時間P.M. 2.00〜5.00まで。会場郡山〇〇屋。会費700円也。

1時半会場に着く。玄関をのぞいて見たがまだあまり来てないようだ。入るとすぐ女中さんが出て来て部屋に案内してくれた。

「やあ」「おうー」まことに感激の瞬間。背広を着、ネクタイをキチンと締めているが相変わらずポケタ顔のA君、学生の頃と比べるとスマートになつたB君、髪をのばしたせいか一層フケて見えるC君、人さまである。

それから皆んなの来る迄思い出話に花を咲かす。又入つて来た。

「やあー」「おう」交す言葉は皆同じだ。他に何か云いようがないのかな。でもこれでいいのかも知れない。良く考えて見ると、この「やあ」「おう」と云う言葉には何とも云えぬ素朴な、そして味わいがあり素晴らしい言葉だ。

約20人程集まる。早速お膳を囲み思い思いに箸を取り、酒を（まだ未青年であるが）汲み交す。そして次々と先生に酒を注ぐ。それを一気に飲み乾しては何度も皆んなの顔を見回す。その顔はまったく幸福そのものといったところだ。

我々が在学中はたしかに世話のやける生徒だつたに違いない。自分でもそう思っているのだから感謝せずにはいられない。本当に有難うございましたと大声で叫びたい。

歌が始まる。校歌もうたう。20余人の大合唱？。大声でうたつた。楽しかつたあの頃を思い出しながら――。

4時半、会もそろそろ終りに近づき、1人去り、2人去り、4人、5人と去つて行く。

「元気でな、頑張れよ！」

派手に食つたせいか700円の会費が300円追加の1000円になる。少し計算が狂つた。サイフを開ける、大丈夫だ。

5時一そろそろ帰ろう。A君と一緒に出る。街のネオンが何となく淋しく感じられる。お互の幸福の為、自分自身の為にしっかりと大地を踏んで強く生きようではないか。
(40. 1. 12)



マイ・カー と共に

一期機械

半沢 忠

◇ 300キロ ドライブの記 ◇

10月×日午前9時、すっかり晴れ上がり、朝日が我が身にふりそゞぎ絶好のドライブ日和。郡山を離れ Route4 を一路南へ。初の長距離ドライブに挑戦する。我が愛車クーベの調子良好。9月から制限スピードがアップされ、60km/h をフルに使って飛ばす。白河、黒磯をアツという間に通り過ぎる。この爽快さ。今回の目的は鬼怒川—川治—田島—湯の上一若松—猪苗代—郡山と 300キロのコース走破にある。

正午、矢板より鬼怒川温泉に到着。ここは全国からの観光客、東京からの週末旅行、団体、新婚旅行と名だたる観光地。鬼怒川の断崖に軒をつらねた旅館街、特色のある岩壁と溪流、実に美観。それに秋の紅葉は心を慰やしてくれた。

午後1時30分、Route121を一路湯の山に向けて出発。エンジンの調子益々良好。見事な紅葉を左右にチラチラ、穴ぼこの多い国道に故障を心配したが、そこは新車の強み、先づ安心してドライブを楽しむ。やがて川治到着。西方に日光の連山、東に高原山がそびえ、これらの山々に囲まれた溪間の温泉郷。このあたり

の紅葉は最高の美を發揮して迎えてくれた。更に上る。五十里湖の青々とした水面、ボートを漕ぐ幾組かのカップル。愛妻が連れでないのが全く残念。途中、美観に目を奪われ記念撮影は何回となく。スーッと止つてはパチリ、スーッと走つては止り、そしてまたパチリ、マイ・カー族ならではのこの味、何とも云えない。

定刻5時、目的地湯の上温泉に着く。心配そうに待つていた社の同僚と感激の対面？ 思わず抱きついてお互の無事を喜ぶ。一風呂浸かつた時は、いさゝか疲労感を覚える。夜はお互いの健闘を祝して盃を交わす。

翌日は若松の新装なつた鶴ヶ城へ向けて発つ。昨日もそうであつたが、知らない道、知らない土地、何度もハンドルを交替しようかと思つたが、幸い助手席にはベテランのT氏が居り、何度か助けられながら、スリルのあるドライブを続けた。どうやら無事若松到着。白く光る鉄筋コンクリート建の現代城にはかつての古城の良さを思ふには、いさゝか出来ずぎの感あり。周囲の紅葉だけが救いだつた。

こゝからは郡山へ向けて帰路を急ぐ。郡山より満載した食糧もボツボツ心細くなつて来ている。最後のコースのヤマは何と云つても猪苗代湖岸ドライブにある。舗装になつた湖岸道路はまことに快適。折から湖上には夕日がかり、湖水のクライマックスである。いさゝかホームシックになる。

かくて無事愛妻愛児の待つマイホームへゴールイン。300キロの初ドライブは快適に幕を下ろす。愛車クーベ君に心から感謝し、化粧直しに精を出した。

【パラマウント硝子勤務】

磐梯浅春 野内裕元



「楽しい」……とは

▶サラリーマン諸氏に、いきなり「あなたの夢は何ですか。それも比較的手のどきやすい、実現可能性のある夢は？」とたずねてみたらどうであろう。私の想像するところ、多分、大抵の人が「楽しい家庭、楽しい職場を持つこと」と答えるのではないだろうか。楽しい家庭、楽しい職場——大へん結構である。私としてもそう異存のあることではない。「楽しい家庭」に

ついてはともかく、「楽しい職場」と云うことは、多くの会社のスローガンになつていくから、サラリーマン諸氏がそう答えたとしても何等不思議なことではない。

▶しかし、最近楽しい職場と云う時の「楽しい」と云うことは、何か心にひつかかるものを感じる。最近聞いた話であるが、アメリカでは儲ける為にそれこそ真剣にトコトンまで働く、即ち仕事をし、楽しむのは会社の外や家庭においてである。それは何故だろうか。社会保証、厚生施設等が完備しているからである。それに反し我が国の実情はどうであろうか。新卒者の入社

試験からもつて、ただ一度の、それも短時間の筆記試験や面接というフルイを通すだけで採用が決めるに。それだけで会社が必要とする人材が得られるところに問題があると思う。従つて採用された者は、機械的に、好むと好まざるとに拘らず職場に送込まれる。また会社ではそれぞれ人員が満たされたと満足する。

▶この様な状態では楽しい職場を作ること出来まい。サラリーマン諸氏よ、お互にもう一度よく考えて見る必要があるのではないか。もし君が、現在のそれで満足であり、結構楽しいと云うのなら何をかいわんやである。(K生)

先輩諸兄へ

13期卒業生代表

木田 博

このたび私たちが母校を巣立つことになりました。実社会への希望と不安とがいろいろとある。しかし3年間に経験した、いろいろ



なことも、深い思い出となつて頭からはなれません。それは私たちにとつて、変化に富んだ3年間でした。子供から大人への転期で、肉体的には大人であつても、精神的にはまだ未熟なために、不安定なことが多く、勉学にはげむかわり、多くの悩み、苦しみやよろこびを経験しました。その中には、多かれ少なかれ誰れもが経験する思春期の悩み、孤独感、あるいは勉学やスポーツに対して、その他多くの悩みを一つ一つ克服しようこびを味わっているうちに、いつしか3年の月日が過ぎてしまいました。

しかしこの間に社会的にも完全とはいえませんがいくらか成長したような気がします。

そしていよいよ同窓会の仲間入りすることになりました。

これから私たちは母校で得たいいろいろな知識をもつて、自分の目的を向うつもりですが、それはそれは浅い知識です。で谷川のつり橋を渡るこころです。

このような時に5千余名もの先輩がいると聞いただけで、心づよく思います。

私たちが先輩に続いて、母校の同窓生として、はずかしくないように、1日も早く成長したいものです。

先輩にはこれからの行先々でいろいろ世話になることも多いと思いますが、その時はよろしくおねがいします。



支部結成の準備すすめる



…………「アカシヤ会」

福島県支部結成準備委員会は2月13日パラマウント硝子工業KKにてアカシヤ会々員が中心となつて開かれ、福島県支部の結成について討議した。この結果、県内在住の会員相互の親睦をより高めるため、支部発足を決めた。すでに結成されている関東、茨城、宇都宮の3支部と共に発展のきずなとしたい。

アカシヤ会については桜葉才6号にて紹介したが、発足以来満4年、その歩みは堅実にある時はソフトボール大会を、また近郊にレクリエーションなどを行つて会員の親睦を図つて来たが、母校を目の前にしている地域に居ながら、たゞ一つの団体だけでの親睦会では大人気なく、大きな目標をもつてこれらを更に進めて行きたいと考えて支部結成を進めている。

北は福島から南は白河までの在住会員に出来るだけ多く呼びかけ、特に

郡山市内の市役所をはじめ官公庁や会社勤務する会員を全て包含したいと準備中である。

支部運営の具体的な事柄については、近日中に開かれる幹事会で決められることになつてはいるが、4月の正式発足を目標に努力したい。3つの先輩支部のご指導により充実した会の実現を図りたいと思います。

県内在住会員は奮つてご参加下さい。連絡先は下記の通りです。

郡山市細沼町4—21 半沢忠あて



結成について討議する会員

野球部出身者に告ぐ！

同窓会員の中で在校中野球部員だつた方、相互の親睦と母校野球部の発展に寄与する目的で会を結成したいと思ひます。住所、氏名、勤務先、期、科名をくわしく書いてはがきでご連絡下さい。

(宛先) 郡山市麓山1丁目7番
20号 寺田宏
後日日時、場所を決めて集り、

会の名称、運営方法など具体的な事柄を検討したいと思ひます。奮つて参加されたい。

発起人 村田 惇 (1期)
柏木 清英 (1期)
島畑 忠司 (1期)
安藤 喜明 (2期)
寺田 宏 (2期)



〔裏通り〕

広長威彦

◆お知らせ

◆おねがい◆

●会員原簿の作成

本部ではかねてより事務の効率化を計るために作成を進めていた「会員の原簿(台帳)」が昨年暮ようやく出来た。(写真)これはパンチ式カードで、各期毎に分類して、その都度必要に応じてすぐその事項を抜き出しできるものです。

今年のこの課題はカードの記入にあるわけですが、現在の会員の住所の大半が不正確なものなので、出来るだけ調査して、正確なものをその都度記入することになっています。

●住所の再確認

カード記入は正確さを必要としますので、今年もまた会員の住所確認を行います。次の項目をはがきに記入して本部へお送り下さい。

期、科、氏名、現住所、勤務先と住所、近況以上を出来るだけ詳しく記入して下さい。

また他の会員の消息も判りましたら併せて

て記入して下さい。諸氏のご協力を切にお願いします。

●年度会費について

年度会費(¥100)は随時納入を受付けます。会の円滑なる運営を計る為に住所の連絡と同時に是非ご協力をお願いします。

1年又は3年、5年と一括納入も受け付けます。送金は振替又は切手代用でも結構です。納入会員には会員名簿をお送りしております。

氏名	住所	期	科	勤務先	近況	備考
山田 太郎	東京都千代田区千代田	第1期	理	東京大学	健康	
田中 花子	東京都千代田区千代田	第2期	理	東京大学	健康	
佐藤 一郎	東京都千代田区千代田	第3期	理	東京大学	健康	
鈴木 次郎	東京都千代田区千代田	第4期	理	東京大学	健康	
高橋 三郎	東京都千代田区千代田	第5期	理	東京大学	健康	
北村 四郎	東京都千代田区千代田	第6期	理	東京大学	健康	
西村 五郎	東京都千代田区千代田	第7期	理	東京大学	健康	
東村 六郎	東京都千代田区千代田	第8期	理	東京大学	健康	
南村 七郎	東京都千代田区千代田	第9期	理	東京大学	健康	
森村 八郎	東京都千代田区千代田	第10期	理	東京大学	健康	

●「らくがき帳」の巡回

会員の近況を知る為にまた桜葉の原稿の収拾を目的として、毎年各期毎に2冊宛巡回し、らくがきをお願いします。近況、趣味、仕事、意見、連絡事項、その他自由にらく書きの上巡回するものです。これも是非ご協力をお願いします。

第10回総会通知

第10回総会は会場を東京へ移し盛大に開きます。諸氏の元気な姿が多数見られるものと楽しみにしています。お誘い合せの上是非ご出席下さい。

会長 寺田 宏

記

●日時 6月5日(日)
A.M 11:30 ~ P.M 14:00

●場所 鮎 忠 本店
(浅草千代田3-55)
TEL 872-0027

上野広小路(京成駅前)より都バス南千住汐入行乗車にて小松橋下車
●会費 ¥700 (内 ¥100は年会費)
当日持参

※出席申込を受付けます。本部宛はがきでお申込み下さい。



★桜葉も3年間のブランクを持つてしまつたが、こゝに紙面の刷新を図り第7号の刊行を見るに至る。今号はブランクの挽回の意味で画期的な増頁と体裁の新装を行う。★桜葉に限らず、ものをまとめることは大へんなことである。たとえ1頁にしても、会員諸氏の協力とそれをまとめる者が居なくてはどうにもならない。今号の原稿依頼は20余通にのぼり、そのうち送稿のあつたのは5通のみ。これら諸兄には心から感謝申し上げたい。そして「特集・私の職場」を組んだ。また「らくがき帳」の巡回によつて、多くの原稿集拾をねらつたが、これは完全にアテがはずれた。3通のみの回収では殆んどものにならず。第7号の初めのプランでは「らくがき帳」の特集をねらつた。出来るだけ多くの会員の記事を1行ずつでも載せたいとは編集子の願いだが、やはり無意味なことか。迷子の「らくがき帳」の搜索願いを出したいところ。★母校の躍進は目ざましい。遅れをとっている紙面もこの姿をまとめてみた。改めて目を見張る先輩諸氏も多いはずだ。帰省の折は思い出の母校で、うまい空気を嗅いながら過ぎし日を回想するのまた明日の英気の養いとなろう。

(2H)